

ST-Bridge Link での利用に関して

2025 年 11 月
アイエスケー株式会社

本ファイルと同じフォルダにある「ST-Bridge Link」下の「アイエスケー株式会社」のフォルダには、ST-Bridge Link で IS ベース BIM ファミリを利用するためのファイルが入っています。
収録ファイルは以下の通りです。

- 収録データ
 - ・ ST-Bridge Link 用ファイル一式「SPT-H」
 - ・ 柱脚マッピングテーブル設定の補助データ「マッピングテーブル追加補助」

「SPT-H」フォルダに入っているのは読み込み用のファミリファイルです。
柱脚マッピングテーブルでタイプ名を空欄にしたままロード可能です。

「マッピングテーブル追加補助」フォルダに入っているのは、「SPT-H_一般.csv」と、
「SPT-H_product_company 属性で製品型番が出力される場合.csv」の 2 点です。
それぞれ、柱脚マッピングテーブル設定ワークシートにコピー&ペーストするためのデータが入っています。

<使用方法>

1. CSV ファイルを表計算ソフトで開く。
2. 2 列目のファイルパスを、SPT-H フォルダを置いた場所に修正する。
3. 1 行目 1 列目セル(Microsoft Excel の場合 A1)から末尾行の 3 列目までを選択し、クリップボードにコピーする。
4. 柱脚マッピングテーブル設定ワークシートを開き、行追加ボタンをクリックし、コピーした行数分、行を追加する。
5. 追加した最初の行の 1 列目にクリップボードからペーストする。

<CSV ファイルの使い分け>

通常は、「SPT-H_一般.csv」を使ってください。

一部のアプリケーションでは、一定条件で、product_company の属性値に"IS ベース"を指定して出力場合があります。

そのような場合、「SPT-H_product_company 属性で製品型番が出力される場合.csv」を使ってください。

CSV ファイルを表計算ソフトで開いた後の作業に違いはありません。

また、一部 ST-Bridge Link のバージョンで排他的な仕様ではないことを確認しており、両方の作業を予め行っておいて、どちらにも対応出来る状態にすることも出来ます。

確認済みのバージョンは、2025 年 11 月現在、以下の通りです。

MappingTable 2020 2020.0.0.1& ST-Bridge Link 2020 2020.0.0.6

Revit Extension for Architecture Japan 2021 21.0.0.0

Revit Extension for Structure Japan 2022 22.0.0.1

Revit Extension for Structure Japan 2023 2023.0.1.0

Revit Extension for Japan 2024 2024.3.0(STB2.0 以降のみ)

Revit Extension for Japan 2025 2025.3.0

<ファミリファイルのバージョンについて>

SPT-Hフォルダに収録されているファミリファイルは Autodesk **Revit** 2020 のバージョンとなっています。

Revit2021以降で、**ST-Bridge Link** で未ロードファミリをロードする際、通常ファミリのロードと同様に、自動で対応バージョンにアップグレードされます。

そのため、**Revit** バージョン別にロード用ファイルを別途用意することは必須ではありません。ただし、ロード時に毎回アップグレード時間がかかるため、予めファミリファイルの **Revit** バージョンを、ご利用環境に合わせてアップグレードしておくことは、無意味ではありません。

I S ベース柱脚工法の設計、施工に関してはカタログ、設計ハンドブックならびに施工マニュアルに基づき実施してください。

注意事項、お願い等を逸脱した上での使用結果、ならびに当サイトよりダウンロードされたデータ内容を変更された上のご使用について当社は、その責任を負いかねますので、ご了承のほどお願い致します。

本データに含まれる基礎柱形の寸法及び鉄筋量等はカタログ等示す標準柱脚仕様です。また、データの内容につきましては予告なく変更を行うことがありますのであわせてご了承くださいますようお願いいたします。

以上